

問われているのは、政権の担い手の選択ではありません

日本共産党
の躍進で

政治の中身を変えましょう



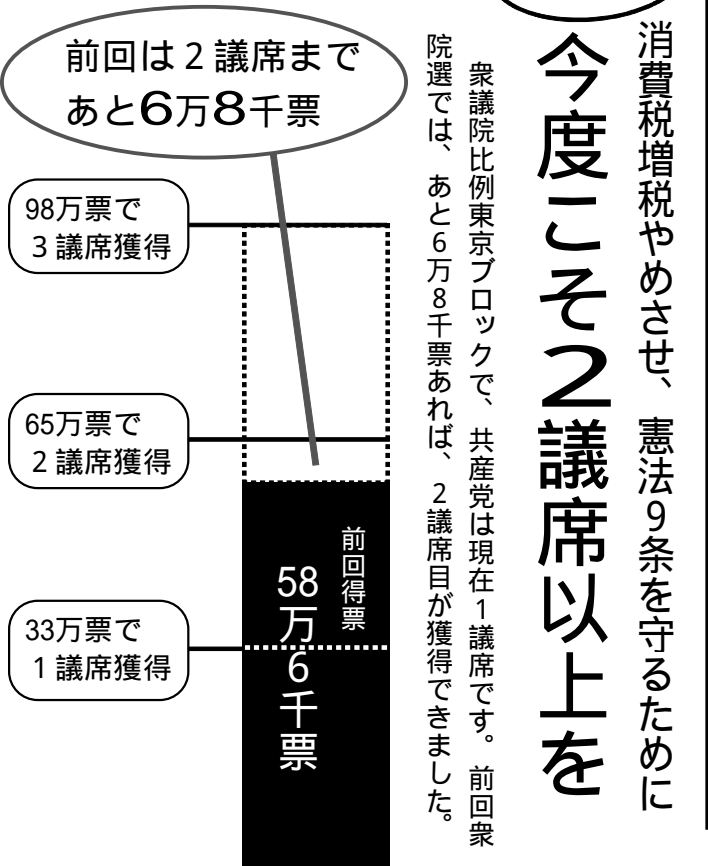
比例東京ブロックの笠井亮衆議院議員とともに訴える（9月10日、千代田区秋葉原駅近く）

福田首相が政権を投げ出しました。「構造改革」の名で国民の暮らしを痛めつけ、憲法を破って自衛隊海外派兵にしがみついていた自民・公明政治がゆきづまった結果です。財界とアメリカ言いなりから「国民が主人公」へ、今こそ政治の中身をおもとから変える時です。



街を自転車でまわりながら宣伝。「共産党にホントにがんばってほしい」と激励してくださる方、話を最後まで聞いてくださる方など、熱い期待を感じます。

衆議院比例東京ブロック 定数17



消費増税やめさせ、憲法9条を守るために
今度こそ2議席以上を

連日街頭で訴えていると、「今度こそ共産党にがんばってほしい」と熱い期待が寄せられます。これまで自民党を支持してきた方たちからも「消費増税は絶対にダメ」「後期高齢者医療制度は本当にひどい」と、切実な願いが寄せられます。

自民党の総裁選で、国民の願いにこたえる候補は1人もいません。5人とも小泉内閣の閣僚として悪政を進めてきたのですから、当然です。

日本共産党は、政治の中身をおもとから切りかえ、「国民が主人公」の新しい政治の実現に全力をあげています。

第1は、大企業のもうけのために国民を犠牲にしてきた政治から、くらしを応援する政治への転換です。派遣労働を規制し、正社員化をすすめる、サービス残業などの無法を掃するなど、ルールある経済社会をめざします。お年寄りを差別する後期高齢者医療制度は廃止しましょう。消費増税には絶対反対です。軍事費をはじめとしたムダづかいにメスを入れ、大企業・大資産家へのゆきすぎた減税を正せば、消費増税

財界・アメリカ言いなり政治から「国民が主人公」の新しい政治へ

はまったく必要がありません。

第2は、アメリカ言いなりから、憲法9条を守り、平和外交への転換です。自衛隊の海外派兵をやめさせ、基地のない平和な日本をつくりましょう。

自民党と基本路線が同じ
民主党では、
願いは実現できません

民主党はどうでしょうか。
「財源」といえば、「いずれは消費増税」と言い、
自衛隊の海外派兵恒久法を提唱しています。自民党政治をおもとから変える政策をもたない党では、国民の願いは実現できません。

日本共産党とともに、「国民が主人公」の政治を実現しましょう。



地域を訪問すると、話がはずみます。写真は、9月7日、港区白金で。「日本共産党に関心をもつようになったのは、最近なんです。これからは、若い人ががんばってほしい」と激励されました。右端は、星野たかし・港区議。



日本共産党衆議院東京1区
国政対策委員長・若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

11 2008.9.21
発行：富田なおき事務所
〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

若者の願いにこたえる政治を

日比谷公園でアンケート・対話

9月2日、「日本共産党と日本を変えるネット」のみなさんといっしょに、日比谷公園で昼休み中の若者たちにアンケートに答えてもらいながら、話を聞きました。



貴重な昼休みの時間をさいて、ほとんどの方がアンケートに応じてくれました

人間扱いしない労働の実態

写真の若者は、専門学校を卒業以来4年間、ホテルなどにベッドを搬入して据え付ける仕事を続けていますが、雇用形態は日雇い派遣だそうです。

必要な足場を派遣会社が用意してくれず、現地調達させられることもあるそうです。危険な現場なのに、安全靴が全員分はないなど、労働者を人間扱いしていない実態にあらためて、怒りがわきました。

「自分勝手なことばかりやっている政治家にうんざり」と話す若者に、「いっしょに政治を変えよう」と訴え、個人加盟のユニオンがあることなどを話しました。

労働者派遣法の抜本改正をはじめ、若者の願いにこたえる政治の実現へなんとしても力を尽くさなければ、と決意を新たにしました。

「ネットカフェ難民」のサポートセンター TOKYOチャレンジネットを視察



比例東京ブロックの笠井亮衆院議員、谷川智行さん、民青同盟のみなさんなどと一緒に視察しました



8月19日、「ネットカフェ難民」など不安定な雇用形態で働く人のサポートセンター「TOKYOチャレンジネット」（新宿区歌舞伎町）を視察しました。

東京都と厚労省の3年間の時限事業として4月に開設され、住宅資金・生活資金の貸し付け事業、就労支援、多重債務の法律相談などを総合的におこなっています。

日本共産党や民青同盟が実態調査し、対策を政府などに求めてきたことが、行政を動かしています。

TOKYOチャレンジネットへの相談は、電話0120-874-225、03-5155-9501またはホームページから

港区南麻布で懇談会



9月13日、日本共産党白金・南麻布後援会主催で、「南麻布地域懇談会」が開かれました。

星野たかし区議が、地域の問題や区議会の状況などを報告。富田なおきは、パネルもつかつて、日本共産党が考える新しい日本の政治についてお話しさせていただきました。

ごみ・資源回収やコミュニティバスなどの地域の要求、事故米の問題などについてご意見をいただき、懇談しました。



新宿区敬老会参加者のみなさんにあいさつする富田なおきと日本共産党新宿区議団

(9月4日、新宿文化センター前)

富田なおきの生いたち

法政大学の国際学生交流会では、先輩の一人が「まじめな学習会をやるう」と「アジアゼミ」を始め、ODA、日本の戦争責任、731部隊などをテーマに学習しました。

留学生やアジアの学生たちとの交流を通じて考えさせられたことは、より深くつきあうためには、互いの国の間で過去に何があった



日本の植民地支配の拠点だった旧朝鮮総督府(ソウル)の前で。左から2人目が富田なおき

アジアの学生たちとの交流を通じて、「二度と戦争はしない」が血肉に

かを知る必要があるということ。サークルの合宿で韓国・ソウルに行った時のこと、現地の女子学生から「どうして日本の政治家は、侵略戦争を免罪する発言をくり返すのか?」と問いかげられ、ハッとさせられました。

これらの活動を通して、「日本は二度と戦争をしてはならない」という思いが、

自分の血肉となっていきました。

また、国際交流大学連絡協議会(SNIE)の活動では、大人数で企画に取り組むことも多く、初対面の人や大勢の人と臆せずにつながる事ができるようになりました。

この頃は、北新宿の日本語教育センター(旧国際学友会)にもよく通いました。